



私にとって初めての議会が9月9日(水)から10月2日(金)まで行われました。わからないことばかりで右往左往しながらも、同じ会派や市民ネットワークの先輩方に助けられ、乗り切ることができました。

## 会派《市民サイド・ネット》に所属

主義主張の近い宮田議員と松本議員と会派を組みました。普段の議員活動はそれぞれ別に行いますが、会派を組むことで自分が所属しない委員会の情報を共有できたり、議案を分担して調査や反対討論を行ったりできるというメリットがあります。

## 平成27年 第3回定例会

林 さえこ 一般質問項目

## 一般質問は《子どもの未来を最優先》で

9月18日(金)一般質問を行いました。柏市のホームページから録画を見ることが出来ます。

「一般質問」とは、市の事務の執行状況や将来に対する考え方などの報告や説明

を、市長や担当部長などに求め、市が市民のための適切な市政運営を進めているかを議員がチェックするものです。

柏市議会では、議員は年4回の定例会で一般質問を行うことができます。

議員一人の持ち時間は答弁を含めて1時間です。

- 1 こども行政について  
子どもの貧困と食事  
こどもルーム
- 2 教育行政について  
就学援助金 学用品、  
補助教材、制服、体操服  
教科書選定 給食
- 3 選挙について  
投票所 SNS利用

### 子どもの貧困と食事

平成24年に子どもの貧困率が16.3%で過去最悪となり、17歳以下の子どもの6人に1人、300万人あまりが貧困状態にあるとされている日本。

柏市の子どもの貧困状況や子どもたちの食事状況の実態を把握する取り組みはあるのか、また今後柏市として「子どもの貧困」の問題にどう取り組んでいくのかについて、市長と担当部長に質問しました。

国は2013年「子どもの貧困対策法」を作り、その具体的な対策を定めた大綱を昨年8月に示しましたが、この大綱に沿って市で施策を行っていくと、教育支援は拡充されますが、今現在困窮している子どもへの支援が行き届かないことが懸念されます。実際柏市の計画では、子どもの貧困対策への予算が少ない上、具体的な施策は生活保護世帯と就学援助受給世帯の子どもたちへの学習補助のみでした。

まずは子どもたちの実態を把握するための施策と、急を要する食事支援の必要性を訴え、検討を求めました。

これに関して市長は「把握可能な数値を分析し、

今後国や県から示される調査結果や計画を踏まえ、効果的な施策を行っていく予定。」との答弁でした。

現在柏市では関連部署が連携して「子どもの貧困対策に関わる検討会議」を行っていますが、通常業務をこなしながら「子どもの貧困」という大きな問題を考えていくのは難しいのではないかと問いには、子ども部長から「今後、専門性を持たせた職員の採用なども検討する」との答弁をいただきました。

また「子ども食堂」についても「具体的に進めたい法人や個人がいれば、相談に乗りたい。」との答弁があったので、今後市としてどのように支援を行っていくのが良いのか、共に考えていこうと思います。

### 学校の気になること...

娘と息子を育てる現役の母親の視点から、学校に関して日頃から疑問だったことを調査し、質問しました。

就学援助金については、PTA会費や部活動補助費などの項目の追加を求め、制度の周知を徹底するために外国語でのお知らせの配布を提案しました。また、より生活実態に沿って審査されるよう、

収入ではなく所得での算定を求めました。いずれについても教育部長は「研究し、検討する。」といった内容の答弁でした。

すべての子どもには等しく教育を受ける権利があり、親の経済的負担はできる限り少なくするべきとの考えから、学用品に関しては、算数セットや鍵盤ハーモニカなどを学校備品にしていくことや、学校ごとに制服などに値段差が出ないように柏市として値段を把握すること、お下がりにしづらい学校別の指定品などを自由化することなどを求めました。備品化などは少しずつ進んでいますが、今後も提案を続け改善を促し続けます。

教科書採択に関しては、採択の会議を公開で行うこと、議事録をホームページに公開することなどを求め、また展示会を沼南庁舎だけではなく、中央や北部でも行うように求めました。「主催が県教育委員会なので、要望を伝える。」との答弁でした。

給食の米飯化や添加物の削減も求めましたが、具体的な答弁はいただけなかった上、私の追及も甘かったと反省しているので、12月議会で継続して取り上げることを検討しています。

## [ 市民環境委員会に参加 ]

9月28日、市民環境委員会が行われました。

柏市には今、「総務」「市民環境」「教育民生」「建設経済」の4つの常任委員会があり、議員は全員いずれかの委員会に所属します。2年後には構成員の見直しがあります。各委員会ではそれぞれの所管に属する議案について審議が行われます。

人数が決まっているので希望通りにならないこともあります。環境問題を主軸にこれまでの活動を行ってきたことから、今回私は「市民環境委員会」を希望しました。市民環境委員会では地域づくり推進部・市民生活部・環境部・水道部の所管に属する事項について審議されます。

今回は6議案が市民環境委員会に付託され、私はこのうち、反対した3議案に関して主に質問しました。

## ハコモノ事業にまだ税金を投入?!

反対討論

定例会最終日、会派で反対した議案の内、市民環境委員会で審議した議案の反対討論を行いました。

柏市では、現在建設中のD街区再開発ビルの3階を借り、柏市文化・交流複合施設を整備する計画です。

中には柏市民交流センター、柏市民ギャラリー、柏市国際交流センター、男女共同参画センターが作られる予定になっています。

それらの施設を管理する指定管理者を決定する8号9号議案と柏市民交流センターの予約システム構築のための補正予算が含まれる19号議案に反対しました。

指定管理者制度そのものには反対ではありませんが、柏市では指定管理者決定の審査が非公開で行われていて詳細情報を提示されないため、選定基準の審査項目やその配点を決定した根拠が不明瞭です。他の自治体のように、公平性を保つために公募市民

などで審査委員会をつくり、審査項目や配点を決める過程や、団体とのヒアリングなどを公開で行うべきであるとの視点から反対しました。

そもそもD街区再開発ビルの3階フロアは、柏駅前行政サービスセンターや消費生活センターなどを作る案が途中で無くなり、国際交流センターや男女共同参画センターが突然決定されるなど、計画が大きく変更されて進められた経緯があり、事業の必要性自体にも疑問があります。

民間が行う再開発事業を援助するために、ビル建設に約27億円を補助し、文化・交流複合施設の内装費用に約4億円かけ、年間約1億100万円もの税金を投入して駅前一等地のビルの床を借り、その床を埋めるための施設を、年間約468万円かけて運営する杜撰(ずさん)な計画に賛成することはできません。